



第2回つくば3Eフォーラム・ワークショップ Article 1

バイオマスタウンつくばの構築にむけて

2008年6月1日

柚山義人・富樫辰志・羽賀清典・島 武男(農研機構)

山本幸一(森林総合研究所)

渡邊 信(筑波大学)

村田和久(産業技術総合研究所)

岡本誠一郎(土木研究所)

土井和之(内外エンジニアリング株式会社)

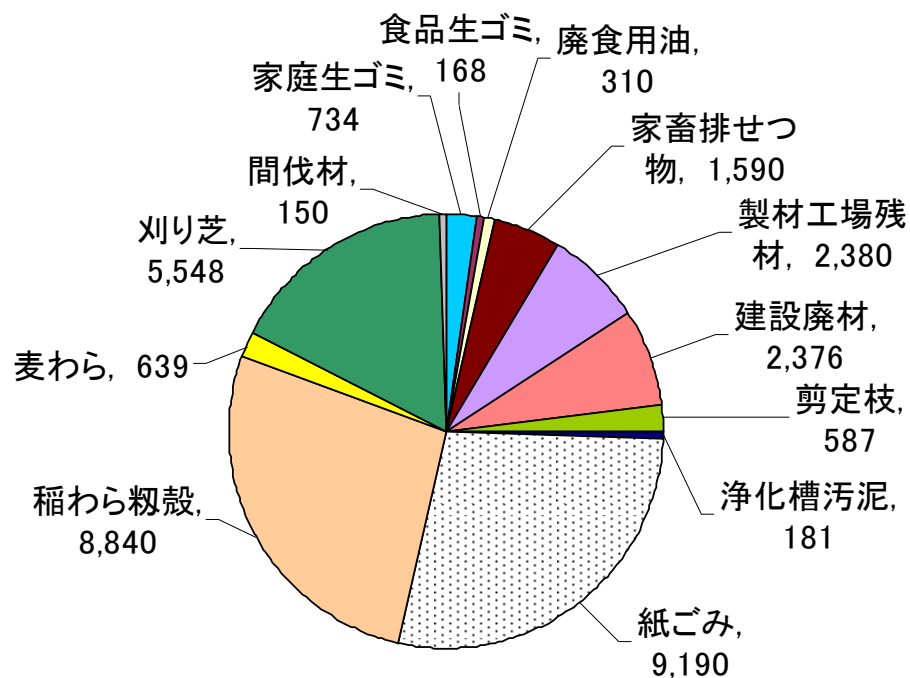
つくば市環境都市推進室

つくば3Eフォーラム・バイオマス技術タスクフォース

会場の皆さま

アーティクル1: バイオマスタウンつくばの構築にむけて 排出量150万tCO₂/年→バイオマス利活用で 7.5万tCO₂/年(5%)を削減

バイオマスの年間発生量(t/年)



総量(湿潤)	160,075t
炭素含有量	26,994t

行動計画

- 1 「つくば市バイオマスタウン構想」を策定する
- 2 産学官民参加のモデル実証実験を行う
(実用可能な技術+チャレンジ的な技術を1/100規模で)
- 3 適正な技術を段階的に適用しつつ, 革新的技術を開発する

アーティクル1: バイオマスタウンつくばの構築にむけて 排出量150万tCO₂/年→バイオマス利活用で 7.5万tCO₂/年(5%)を削減

○森林・里山・農地の保全によるCO₂吸収量の維持増進

○従来技術の適用(短期～中期)

- ・マテリアル利用(餌・堆肥・炭・木製道路)
- ・資源作物→バイオディーゼル・バイオエタノール
- ・生ごみ・家畜排せつ物・汚泥→メタン(電気・熱)・液肥
- ・木質・刈り芝・紙ゴミ→電気・熱・炭(小型ガス化発電)
- ・廃食用油→バイオディーゼル

○革新的技術へのチャレンジ(中期～長期)

- ・藻類→オイル
- ・刈り芝・稲わら・建設廃材→バイオ軽油
- ・木質・草・稲わらなど→バイオエタノール

行動計画

- 1「つくば市バイオマスタウン構想」を策定する
- 2産学官民参加のモデル実証実験を行う
(実用可能な技術+チャレンジ的な技術を1/100規模で)
- 3適正な技術を段階的に適用しつつ、革新的技術を開発する



アーティクル1: バイオマスタウンつくばの構築にむけて

「人と技術と制度」をつなげて、バイオマスの利活用を進めます。効果を、田園都市づくり全体に及ばせます。より環境・安全を重視した農と食の推進につなげます。バイオマスが健全に利活用されるマチは、人の心と自然が美しくなります。循環型社会の形成に貢献し、つくば環境スタイルで、人の交流を生むバイオマス利活用、それは**地域の元気の源**です。強い意志でミッションを成功に導きます。

